

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条において準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本ゴム工業会 (JRMA) から工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって **JIS K 6380 : 1994** は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、**JIS K 6301** の廃止に伴う見直しを行うとともに、該当部分を国際規格に整合させるために、**ISO 4632-1 : 1982, Rubber, vulcanized—Classification—Part 1 : Description of the classification system** を、基礎として用いた。

ゴムパッキン材料

Rubber packing material

序文 この規格は、1982年に第1版として発行された ISO 4632-1, Rubber, vulcanized—Classification—Part 1: Description of the classification system を元に、対応する部分については対応国際規格を翻訳し、技術部内容を一部変更して作成した日本工業規格であるが、対応国際規格には規定されていない規定項目を日本工業規格として追加している。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格にはない事項である。

1. 適応範囲 この規格は、ゴムパッキン材料及びこれに類するゴム製品に使用する加硫ゴム材料（以下、ゴム材料という。）の品質に基づく区分について規定する。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

ISO 4632-1 : 1982 Rubber, vulcanized—Classification—Part 1 : Description of the classification system

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。

JIS B 2401 Oリング

備考 ISO 6505 : 1997 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of tendency to adhere to and to corrode metals からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS C 2110 固体電気絶縁材料の絶縁耐力の試験方法

備考 ISO 1853 : 1998 Conducting and dissipative rubbers, vulcanized or thermoplastic—Measurement of resistivity からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6251 加硫ゴムの引張試験方法

備考 ISO 37 : 1994 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of tensile stress-strain properties からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6252 加硫ゴムの引裂試験方法

備考 ISO 34-1 : 1994 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of tear strength—Part 1 : Trouser, angle and crescent test pieces からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6253 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの硬さ試験方法

備考 ISO 48 : 1994 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of hardness (hardness between 10 IRHD and 100 IRHD) からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 1818 : 1975 Vulcanized rubbers of low hardness (10 to 35 IRHD)—Determination of hardness
からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 1400 : 1975 Vulcanized rubbers of high hardness (85 to 100 IRHD)—Determination of hardness
からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6255 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの反発弾性試験方法

備考 ISO 4662 : 1986 Rubber—Determination of rebound resilience of vulcanizates からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6256 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの接着試験方法

備考 ISO 36 : 1993 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of adhesion to textile fabric からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6257 加硫ゴムの老化試験方法

備考 ISO 188 : 1982 Rubber, vulcanized—Accelerated ageing or heat-resistance tests からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6258 加硫ゴムの浸せき試験方法

備考 ISO 1817 : 1985 Rubber, vulcanized—Determination of the effect of liquids からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6259 加硫ゴムのオゾン劣化試験方法

備考 ISO 1431-1 : 1989 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Resistance to ozone cracking—Part 1 : Static strain test からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 1431-2 : 1994 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Resistance to ozone cracking—Part 2 : Dynamic strain test からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6260 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムのデマチャ屈曲き裂試験方法

備考 ISO 132 : 1983 Rubber, vulcanized—Determination of flex cracking (De Mattia) からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 133 : 1983 Rubber, vulcanized—Determination of crack growth (De Mattia) からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6261 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの低温試験方法

備考 ISO 812 : 1991 Rubber, vulcanized—Determination of low-temperature brittleness からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 815 : 1991 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of compression set at ambient, elevated or low temperatures からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 1432 : 1988 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of low temperature stiffening (Gehman test) からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 2921 : 1997 Rubber, vulcanized—Determination of low temperature characteristics—Temperature-retraction procedure (TR test) からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6262 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの永久ひずみ試験方法

備考 ISO 815 : 1991 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of compression set at ambient, elevated or low temperatures からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 2285 : 1997 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of tension set at normal and

high temperatures からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6263 加硫ゴムの応力緩和試験方法

備考 ISO 3384 : 1991 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of stress relaxation in compression at ambient and at elevated temperatures からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である

JIS K 6264 加硫ゴムの摩耗試験方法

備考 ISO 4649 : 1985 Rubber—Determination of abrasion resistance using a rotating cylindrical drum device が、この規格と一致している。

JIS K 6265 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムのフレクソメータによる発熱及び疲労試験方法

備考 ISO 4666-1 : 1982 Rubber, vulcanized—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing—Part 1 : Basic principles からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 4666-3 : 1982 Rubber, vulcanized—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing—Part 3 : Compression flexometer からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6267 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの汚染試験方法

備考 ISO 3865 : 1997 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Methods of test for staining in contact with organic material からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 6353 水道用ゴム

JIS K 6394 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの動的性質試験方法

JIS K 6911 熱硬化性プラスチック一般試験方法

備考 ISO 1853 : 1998 Conducting and dissipative rubbers, vulcanized or thermoplastic—Measurement of resistivity からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 7126 プラスチックフィルム及びシートの気体透過度試験方法

備考 ISO 2782 : 1995 Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of permeability to gases からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

ISO 4663 Rubber—Determination of dynamic behaviour of vulcanizates at low frequencies—Torsion pendulum method からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

3. 区分

3.1 総論 この規格において、それぞれのゴム材料を、まず 3.2 に示す 3 種の基準で、更に 3.3 に示す基本性能のグループごとに、必要ならば 3.4 に示す特別性能によって区分する。

3.2 性能区分 区分を体系づけるために各ゴム材料について、次のアルファベットの三つの大文字からなる 3 区分を規定する。ここで、第 1 文字は耐熱性を、第 2 文字は耐油性を、第 3 文字は耐寒性を、それぞれ表す。

例えば、ゴム材料名が BCD であれば、耐熱性が“B”，耐油性が“C”，耐寒性が“D”のゴム材料であることを示す。

a) 耐熱性 耐熱性は、ゴム材料を JIS K 6257 の方法によってオープン中で連続 70 時間老化させたとき、引張強さの変化率が±30%を超えないもの、切断時伸びの変化率が－50%以内のもの、かつ、硬さの変化が IRHD 又はタイプ A デュロメータで±15 以内であるときの最高温度として規定する。各ゴム材

料について耐熱性を決定するための試験温度を表 1 に示す。

表 1 耐熱性の区分

単位 °C

| 耐熱性 | 試験温度(°) |
|-----|---------|
| A | 70 |
| B | 100 |
| C | 125 |
| D | 150 |
| E | 175 |
| F | 200 |
| G | 225 |
| H | 250 |
| J | 275 |
| K | 300 |

注(°) 試験温度は、JIS K 6257に規定する温度。試験室での熱老化は促進試験であるから、そのゴム材料がどのような特殊な用途においても、示された温度に耐えるとは限らない。

- b) **耐油性** 耐油性は、JIS K 6258 の方法によって、ゴム材料の体積変化率を求め、表 2 のとおり区分する。この場合、試験用油は試験用潤滑油 No.3 を用い、表 1 の試験温度で連続 70 時間浸せきする。ただし、試験用油の安定限界が 150°Cであるから、表 1 の試験温度で 150°Cを超えるものは 150°Cで試験を行う。

表 2 耐油性の区分

| 耐油性 | 体積変化率（最大）% |
|-----|-------------------|
| A | 140を超えるもの(又は規定せず) |
| B | 140 |
| C | 120 |
| D | 100 |
| E | 80 |
| F | 60 |
| G | 40 |
| H | 30 |
| J | 20 |
| K | 10 |
| L | 5 |

- c) **耐寒性** 耐寒性は、JIS K 6261 の方法によって決定したゴム材料のぜい化温度による。それぞれの耐寒性に対する衝撃ぜい化温度を表 3 のとおり区分する。

表 3 耐寒性の区分

| 単位 °C | |
|-------|--------------|
| 耐寒性 | 衝撃ぜい化温度 (最高) |
| A | 0 |
| B | −10 |
| C | −25 |
| D | −40 |
| E | −55 |
| F | −75 |
| G | −85 |
| H | 規定せず |

3.3 基本性能

- a) **基本性能及び表示区分** 基本性能を次のとおり規定し、4 けたの表示数字で表す (適切な単位を括弧内に示す。)。

- 1) 1 けた目は、硬さ (IRHD 又はタイプ A デュロメータ) を示す。
- 2) 2 けた目は、引張強さ (MPa) の最小値を示す。
- 3) 3 けた目は、切断時伸び (%) の最小値を示す。
- 4) 4 けた目は、耐熱性の項で規定する試験温度での圧縮永久ひずみ (%) の最大値を示す。

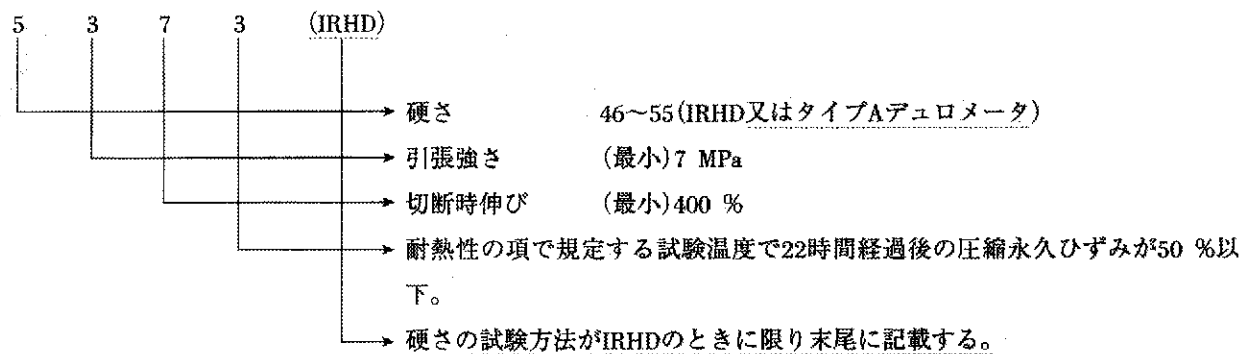
ただし、硬さの試験方法が二通りなので、IRHD を用いたときに限り末尾に (IRHD) と追記する。
基本性能に対する表示数字の区分を、表 4 に示す。

表 4 表示数字の区分

| 硬さ | | | | 引張強さ | | 切断時伸び | | 圧縮永久ひずみ ⁽²⁾ | |
|--------------------|-------|------|--------------|--------------------|----------|--------------------|--------|------------------------|--------|
| 表示数字 | IRHD | 表示数字 | タイプ A デュロメータ | 表示数字 | (最小) MPa | 表示数字 | (最小) % | 表示数字 | (最大) % |
| 0 | 規定せず | 0 | 規定せず | 0 | 規定せず | 0 | 規定せず | 0 | 規定せず |
| 1 | 10~15 | 1 | 10~15 | 1 | 3 | 1 | 50 | 1 | 80 |
| 2 | 16~25 | 2 | 16~25 | 2 | 5 | 2 | 100 | 2 | 60 |
| 3 | 26~35 | 3 | 26~35 | 3 | 7 | 3 | 150 | 3 | 50 |
| 4 | 36~45 | 4 | 36~45 | 4 | 10 | 4 | 200 | 4 | 40 |
| 5 | 46~55 | 5 | 46~55 | 5 | 14 | 5 | 250 | 5 | 30 |
| 6 | 56~65 | 6 | 56~65 | 6 | 17 | 6 | 300 | 6 | 25 |
| 7 | 66~75 | 7 | 66~75 | 7 | 20 | 7 | 400 | 7 | 20 |
| 8 | 76~85 | 8 | 76~85 | 8 | 25 | 8 | 500 | 8 | 10 |
| 9 | 86~95 | 9 | 86~95 | 9 | 35 | 9 | 600 | 9 | 5 |
| 試験方法 JIS K 6253 | | | | 試験方法 JIS K 6251 | | 試験方法 JIS K 6251 | | 試験方法 JIS K 6262 | |

注⁽²⁾ 圧縮永久ひずみ試験の試験条件は、耐熱性の項で規定する試験温度で22時間経過後の測定とする。

- b) **基本性能表示数字の例**



3.4 特別性能 3.3の基本性能の一部を変更するか、又は別の性能を追加する必要があるときは、特別性能を表す追加記号及び追加数字を使用する。

備考1. 特別性能は、ゴム材料を使用条件に適合させるために必要な性能だけを加えるものとする。

2. 基本性能は、特別性能で追加の規定をしない限り有効である。

a) 追加記号 追加記号は、特別性能を表すために用いられ、表5に示すとおりである。追加記号がEの場合は、2文字が使用される。

表 5 特別性能を表す追加記号の区分

| 追加記号 | 特別性能 | 追加記号 | 特別性能 |
|------------------|----------------|------------------|------------|
| A | 耐熱性 | K | 接着性 |
| B | 圧縮永久ひずみ, 永久伸び | L | ガス透過性 |
| C | 耐オゾン性 (静的, 動的) | N ⁽⁴⁾ | 耐薬品性 |
| D | 圧縮応力緩和 | O | 電気特性 |
| E ⁽³⁾ | 耐液体性 | P | 汚染性, 接触特性 |
| EO | 耐油性 (潤滑油) | R | 反発弾性 |
| EF | 耐油性 (燃料油) | S | 動的特性 |
| EA | 耐水性 | T | 静的引張特性 |
| F | 耐寒性 | U | 浸出性 |
| G | 引裂強さ | (V, W, X, Y) | (新規特性用の予備) |
| H | 耐屈曲性 | Z | その他 |
| J | 耐摩耗性 | | |

注(3) 追加記号“E”は、膨潤によって物理変化を引き起こす液体に関する試験を含む。

(4) 追加記号“N”は、膨潤によって物理変化及び化学変化の双方を引き起こす液体に関する試験を含む。

- b) **追加数字** それぞれの追加数字は、それに適用される試験条件を表す次の二つの数字である。初めの追加数字は試験方法を表し、その区分を表 6 に示す。また、2 字目の追加数字は試験温度を表し、その区分を表 7 に示す。

試験条件を規定するために 3 けた以上の文字が必要ならば、試験方法及び温度の要素を“一”(ハイフン)によって分けて表す。

例えば, A1-10, F10-0

備考1. 追加数字が記入されていない追加記号は、試験項目は適用可能であるが、試験方法、試験温度又はその両方が未定の場合である。

2. 特別性能を表す追加記号及び追加数字は、単独でも組合せでも使用できる。

例 A14 EO34

3. 特別性能試験は、表 6 に特別性能試験を含む一覧表を記載し、必要に応じてこの中から選択するようにした。

なお、特別性能には数値を規定していないものがあるが、これらは使用条件によって要求値が異なることから、受渡当事者間の協定によることとした。

表 6 試験方法による 1 字目追加数字の区分

| 追加 記号 | 特性 | 1 字目の追加数字 | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|----------------------|----------------------|---|-----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|---------------------------------|------------------------|--------------------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | | 試験方法及び試験条件 | | | | | | | | | |
| A | 耐熱性 | JIS K 6257 70 時間 | JIS K 6257 7 日 | JIS K 6257 14 日 | JIS K 6257 28 日 | JIS K 6257 42 日 | | | | | |
| B | 圧縮永久ひずみ | JIS K 6262 22 時間 | JIS K 6262 70 時間 | JIS K 6262 7 日 | JIS K 6262 14 日 | JIS K 6262 28 日 | | | | | |
| | 永久伸び | | | | | | JIS K 6262 | | | | |
| C | 静的耐オゾン性 | JIS K 6259 50pphm | JIS K 6259 25pphm | JIS K 6259 100pphm | JIS K 6259 200pphm | | | | | | |
| | 動的耐オゾン性 | | | | | JIS K 6259 50pphm | JIS K 6259 25pphm | JIS K 6259 100pphm | JIS K 6259 200pphm | | |
| D | 圧縮応力緩和 | JIS K 6263 | | | | | | | | | |
| E | 耐液体性 | JIS K 6258 体積法 | | | | | | | | | |
| EO | 耐油性（潤滑油） | Oil No.1 70 時間 | Oil No.2 70 時間 | Oil No.3 70 時間 | Oil No.1 7 日 | Oil No.2 7 日 | Oil No.3 7 日 | 液体 NO.101 70 時間 | 液体 No.102 又は 103 70 時間 | 液体 No.101 168 時間 | |
| EF | 耐油性（燃料油） | 液体 A 70 時間 | 液体 B 70 時間 | 液体 C 70 時間 | | | | | | | |
| EA | 耐水性 | 蒸留水 70 時間 | 蒸留水 7 日 | 蒸留水とエ チレングリ コールの等 体積混合液 70 時間 | | | | | | | |
| F | 衝撃ぜい化温度 | JIS K 6261 | | | | | | | | | |
| | 低温ねじり試験 （ゲーマンねじり試験） | | JIS K 6261 t2 | JIS K 6261 t10 | | | | | | | |
| | 低温圧縮永久ひずみ | | | | | JIS K 6261 | | | | | |
| | 低温弾性回復試験 (TR) | | | | | | | JIS K 6261 TR10 | JIS K 6261 TR30 | JIS K 6261 TR50 | JIS K 6261 TR70 |

| 追加 記号 | 特性 | 1 字目の追加数字 | | | | | | | | | |
|----------|--------------------------------------|----------------------|--------------------------------|---------------------|------------|--------------------------------|------------|----------|-------|----------------|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | | 試験方法及び試験条件 | | | | | | | | | |
| G | 引裂強さ | JIS K 6252 クレセント形 | JIS K 6252 アングル形 (切込みあり) | JIS K 6252 トラウザ形 | | JIS K 6252 アングル形 (切込みなし) | | | | | |
| H | 耐屈曲き裂性 | JIS K 6260 | | | | | | | | | |
| | 耐き裂成長性 | | JIS K 6260 | | | | | | | | |
| J | 耐摩耗性 | JIS K 6264 | | | | | | | | | |
| K | ゴム－金属接着性 (2 プレート法) | JIS K 6256 | | | | | | | | | |
| | ゴム－金属接着性 (1 プレート法) | | JIS K 6256 | | | | | | | | |
| | ゴム－織布接着性 | | | | JIS K 6256 | | | | | | |
| L | ガス透過性 (差圧法) | | | JIS K 7126 | | | | | | | |
| N | 耐薬品性 | JIS K 6258 | | | | | | | | | |
| | | 塩酸 | | 硫酸 | | 硝酸 | | 水酸化ナトリウム | | 次亜塩素酸 ナトリウム | |
| | | 10%溶液 | 37%溶液 | 3%溶液 | 30%溶液 | 10%溶液 | 40%溶液 | 10%溶液 | 60%溶液 | 10%溶液 | |
| O | 抵抗率 | | | | JIS K 6911 | | | | | | |
| | 絶縁抵抗 | | | | | JIS K 6911 | | | | | |
| | 絶縁破壊電圧 | | | | | | JIS K 2110 | | | | |
| P | 有機材料への移行性 | JIS K 6267 A1 法 | JIS K 6267 A2 法 | | | | | | | | |
| | 金属腐食性 | | | JIS B 2401 | | | | | | | |
| R | 反発弾性 | JIS K 6255 | | | | | | | | | |
| S | 複素弾性係数 G^* (往復ねじりひずみ) | ISO 4663 | | | | | | | | | |
| | 機械的損失係数 $\tan\delta$ (往復ねじりひずみ) | | ISO 4663 | | | | | | | | |
| | 複素弾性係数 G^* (強制正弦せん断ひずみ) | | | JIS K 6394 | | | | | | | |
| | 機械的損失係数 $\tan\delta$ (強制正弦せん断ひずみ) | | | | JIS K 6394 | | | | | | |

| 追加 記号 | 特性 | 1 字目の追加数字 | | | | | | | | | |
|--------------|-----------------------------|------------|------------|---|---|---|---|------------|------------|---|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | | 試験方法及び試験条件 | | | | | | | | | |
| S | 圧縮フレクソメータ －温度上昇 －耐疲労性 | JIS K 6265 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | JIS K 6265 | | | |
| | | | | | | | | | JIS K 6265 | | |
| T | 引張応力 | JIS K 6251 | | | | | | | | | |
| | 伸び | | JIS K 6251 | | | | | | | | |
| U | 浸出性 | JIS K 6353 | | | | | | | | | |
| V, W X, Y | 予備 | | | | | | | | | | |
| Z | その他 | | | | | | | | | | |

表 7 試験温度による 2 字目追加数字の区分

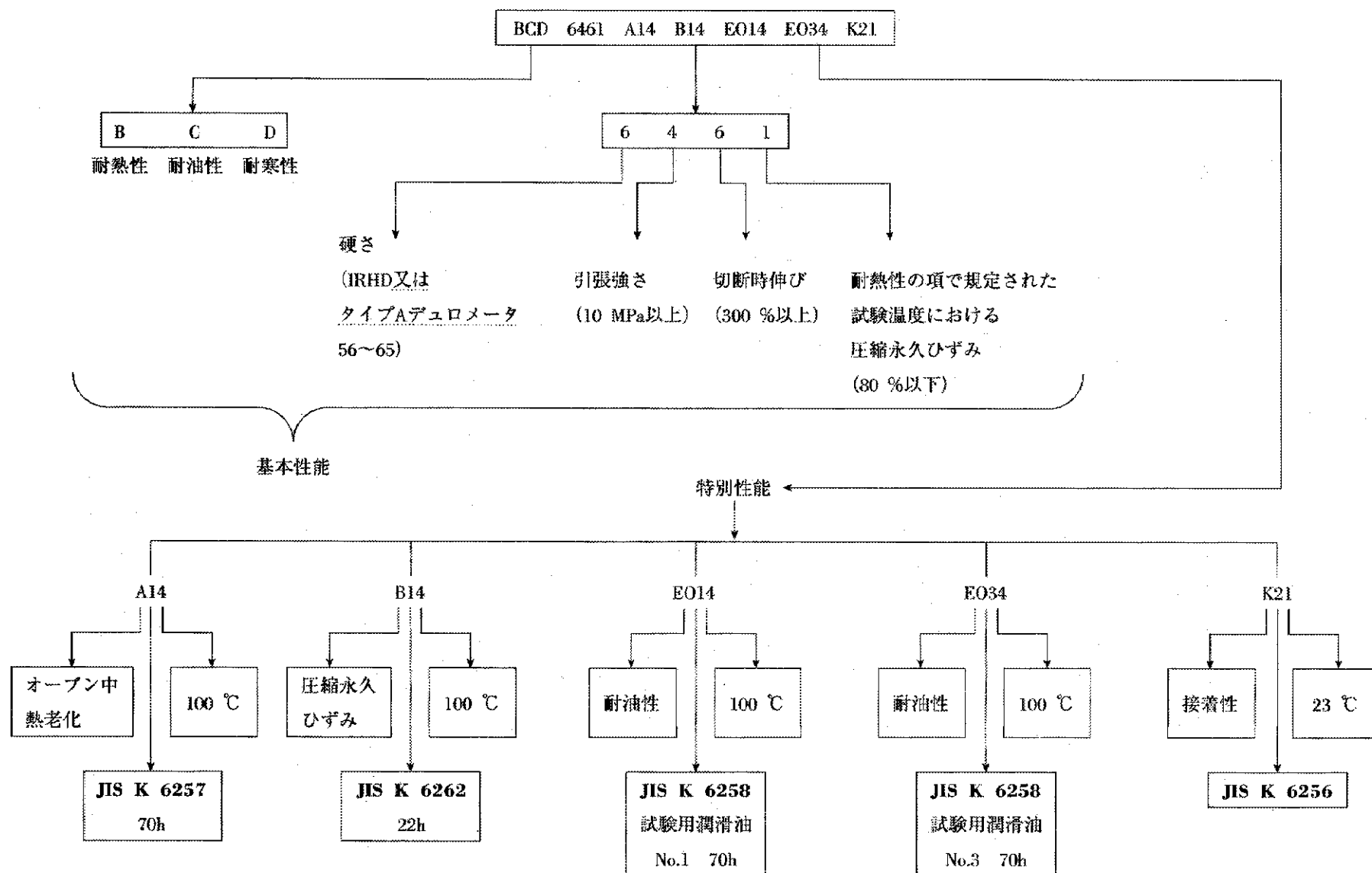
| 追加記号 | 2 字目の追加数字 | 試験温度 ℃ | 追加記号 | 2 字目の追加数字 | 試験温度 ℃ |
|----------|-----------|------------------|------|-----------|------------------|
| A, B, C, | 12 | 300 | F | 0 | (⁵) |
| D, E, G, | 11 | 275 | | 1 | 23 |
| H, J, K, | 10 | 250 | | 2 | 0 |
| L, N, O, | 9 | 225 | | 3 | −10 |
| P, R, S, | 8 | 200 | | 4 | −25 |
| T, U, Z | 7 | 175 | | 5 | −40 |
| | 6 | 150 | | 6 | −55 |
| | 5 | 125 | | 7 | −70 |
| | 4 | 100 | | 8 | −85 |
| | 3 | 70 | | | |
| | 2 | 40 | | | |
| | 1 | 23 又は 27 | | | |
| | 0 | (⁵) | | | |

注(⁵) 試験方法で規定された温度，又は屋外試験時における雰囲気温度のいずれか望ましいほうを選択する。

3.5 ゴム材料の規格 ゴム材料を規定するための表示文字には，次の項目が含まれていなければならない。

- 3 文字の表示文字（耐熱性，耐油性，耐寒性）
- 基本性能に関するけたの表示数字（硬さ，引張強さ，切断時伸び及び圧縮永久ひずみ）

ゴム材料を規定する表示文字と，それに相当する要求物性の詳細な例を**付図 1**に示す。



付図 1

JIS K 6380 改正原案作成委員会 構成表

| | 氏名 | | | | 所属 |
|----------|-----------|--|--|--|-------------------------|
| (委員長) | 御 船 直 人 | | | | 財団法人鉄道総合技術研究所技術開発事業本部 |
| (委員) | 西 出 徹 雄 | | | | 通商産業省基礎産業局 |
| | 橋 本 繁 晴 | | | | 財団法人日本規格協会技術部 |
| | 秋 葉 光 雄 | | | | 財団法人化学品検査協会高分子技術部 |
| | 本 野 光 彦 | | | | 社団法人日本水道協会工務部 |
| | 馬 場 和 義 | | | | 社団法人自動車技術会 |
| | | | | | ダイハツ工業株式会社材料技術部 |
| | 川 治 信 介 | | | | イノアックエラストマー株式会社ゴム技術センター |
| | 歳 森 康 弘 | | | | 丸五ゴム工業株式会社研究管理室 |
| | 平 澤 春 夫 | | | | 藤倉ゴム工業株式会社大宮工場 |
| | 町 山 朋 秀 | | | | 株式会社阪上製作所技術研究本部 |
| | 石 田 昌 己 | | | | 日東化工株式会社技術開発センター |
| | 柳 本 清 志 | | | | タイガースポリマー株式会社技術グループ |
| | 今 野 正 | | | | 東北ゴム株式会社シート部技術グループ |
| | 中 村 武 | | | | 入間川ゴム株式会社技術部 |
| | 鈴 木 輝 夫 | | | | 横浜ゴム株式会社工業資材工場 |
| | 浅 田 信 行 | | | | オーサカゴム株式会社 |
| | 野 並 宏 典 | | | | クレハエラストマー株式会社 |
| | 小 川 和 久 | | | | 株式会社十川ゴム堺工場 |
| (事務局) | 岩 瀬 剛 | | | | 日本ゴム工業会総務部 |
| (オブザーバー) | 八 田 勲 | | | | 工業技術院標準部 |
| | (文責 柳本清志) | | | | |